

## ◆この人



いのちの仲間と共に、いのちの思いを語る（2019.9.28 中電ホールにて）

長女を小児がんで亡くした。十年後、当てもなく会社を辞めて「いのちの授業」を始めた鈴木中人。三十万人が参加する活動になつてゐる。その歩みと思ひとは？

### 「いのちの授業」十五年と志

（「広げよう！いのちの授業」第十五回記念大会の講演より）

私は、元々は普通のサラリーマンでした。一九九二年、長女・景子が小児がんを発病した。三年間闘病して亡くなりました。いのち・家族、生死、良い医療とは何かを答えもなく思つた。

十年後、当てもなく会社を辞めて、いのちをバトンタッチする会を立ち上げて「いのちの授業」を始めた。その年から、いのちの大会を開催しており、今年で十五回になつた。立上げ当時のテレビ取材映像を見てください。

〔映像ナレーション〕

「三歳の夏、景子ちゃんは小児がんを発病した。普通の家族の生活は一変した。手術・辛い抗癌剤治療が続いた。二年後、再発が見つかった。妻の淳子さんは『景子ちゃん、いっぱい頑張ったのに』と涙を流した。

景子ちゃんは車いすの生活になつても『学校に行きたい』と通つた。必ず学校に行くと、病院のベッドで学校の宿題もした。

お嫁さんが大好きだった。看護師さんの結婚式があると連れていつてもらつた。帰つてくると、「私

### 「いのちの授業」を志す

（「広げよう！いのちの授業」第十五回記念大会の講演より）

も、早くお嫁さんになりたい」と、嬉しそうに自分の花嫁姿を何枚も何枚も絵に描いた。

夏の日、たつた一人で天国に旅立つた。家から送り出すとき、淳子さんは、景子ちゃんとウエディングドレスを着せてブーケを持たせた。鈴木さんは、もう絶対なれない花嫁の父として送り出した。六年のおよめさん。景子ちゃんの夢は叶つた。

死別後、鈴木さんは景子ちゃんのことをほとんど話さなかつた。五年後、子どもの供養とは親が生まれ変わることと、子どもの分まで生きることとの言葉に出会つた。涙が溢れた。何をすべきか？

景子ちゃんが「いのちのメッセージ」を託してくれた、それをバトンタッチしよう。人生一度なし、子どもの分まで生きる。会社を辞めて「いのちの授業」を始めた。いのちの授業の最後に、鈴木さんは声を強くして話す。

『どんなことがあっても、お父さんお母さんより、絶対早く死んではいけない！』

今、鈴木さんは願つていて。いのちを見つめて、本当に大切なことは何かを問い合わせほしいと

### いのちの大会にて、志を新たに！

鈴木 中人

一〇〇五年一月、会社を辞めて「いのちの授業」を始めた。十月、その思いを発信すべく、「広げよう！いのちの授業」第一回大会を開催。胸熱くして挨拶をしました。

「いのちの授業」。こんな愚直なテーマで、しかも無名主催者の会に誰が来てくれるかと心配していました。たくさんの中間が駆けつけてくれました。みなさん、本当にありがとうございます。

今、いのちが粗末にされるのと、普通の出来事のように受け流している。本当にいいのでしょうか？

いのちは一番大切なものです。

私達は世代責任として、いのちを大切にする家庭や社会を引き継いでいく責任がある。そのため、美しい言葉だけではなく、小さな実践を大切にしたいと思います。その実践として、「いのちの授業」に取組んでいきます。

いのちをみつめる、語り継ぐ、いのちの授業を考える場としてこの大会を開催しました。

一人で出来る」とは小さなことです。しかし、一人の一步は、百人で百歩、千人で千歩になる。この大会が、その第一歩になることを願っています。

その後、大会はテーマを定めて、年一回開催してきました。

第一回大会から、ずっと願つていたことがあります。

テーマは「いのちと志」、メインゲストは上甲亮先生、私自身の志といのちの実践を語る。上甲先生は、志の伝道師で私の人生の師です。

しかし、その大会は、長年主催できませんでした。私は自身が、「いのちの授業」の活動に思い悩み、「いのちと志」について確信が持てなかつたからです。

五年、まだまだ。十年、まだ。十五年、やっと第十五回記念大会を開催（九月二十八日）しました。





景子のお守と伊藤さんの名札

「己の損得を乗り越える。やつと今、その意味を実感している。  
だからこそ、終生、志を持たねばならない。

いのちのバトンを胸に生きる

二〇一六年五月、一つのメール  
が届いた。

「景子ちゃんのお父さんですか」  
伊藤敦子さんからだつた。伊藤さんは、景子が入院していた大学病院で勤務していた看護師だつた。  
「子どものいのちを守りたい」と、小児科で働きだした。しかし、大学病院の小児病棟の現実は、新人看護師には過酷だつた。  
まず自分の未熟さを、毎日思い知らされた。分からぬことばかり

「自分の心を見すかざれているのでは…。病院と闘つてこな景子ちゃんに心配されるようではダメだ。」景子の優しさに涙が出そう。「でも涙をこらえてこたえた。

「ありがとう、大事にするからね。看護師さん、頑張ります!」「自分のことはかりを考えていた。たつた一つでいい、自分ができる

「景子ちゃんに会えたから、今の  
私があります。景子ちゃんは、今  
もあややかに私の中にいますー」。  
私も胸が熱くなつた。

先ほど、いのちは預かりもの、  
お返しするものと言つた。でも遺  
せるものがある。

いのちのバトンである。

「景子ちゃんのお父さんですか？」伊藤敦子さんからだつた。伊藤さんは、景子が入院していた大学病院で勤務していた看護師だつた。「子どものいのちを守りたい」と、小児科で働きだした。しかし、大病院の小児病棟の現実は、新人看護師には過酷だつた。

まず自分の未熟さを、毎日思い知らされた。分からぬことばかり

いのちのバトンを胸に生きて  
「己」の損得を乗り越える。やつと  
今、その意味を実感している。  
だからこそ、終生、志を持たねば  
ならない。

上田先生の「志の教え」で、一番地は、己の損得を乗り越えろ  
ーである。長い間、私は腹に落ちなかつた。「志は、損得で考えるも

己の損得を乗り越えろ

つた。また、小児がんの支援などを通じて、患者家族の思い・良き医療とは何かを思い、医学部・看護専門学校などで専門講座やがん教育にもなった。会社を辞めて実感した働く意味・自分を変える・人間力などは、企業や経営者向セミナーになった。

今、六冊の本を出版して、「いのちの授業」は小学校道徳の教科書にもなった。また、三重大学医学部などの非常勤講師、厚生労働省がん対策推進協議会委員、名古屋屋医療センター倫理委員、名古屋陽緑子センター経営委員なども務めている。そして、「いのちの授業」の参加者は三十万人を超えた。

ただ広げようと動いていたら、一見、広がつてはいるが、薄っぺらなものになっていたに違いない。続けさせてもらう自分が悪い、根本こを深めたからこそ、結果として広がつたのだ。

今のその方は、いのちを支え守る  
仕事ですと答えていた。  
使命。命を使うと書く。限りある  
自分の命を何に使うか。その思  
いを仕事に込めるとき、天職・使  
命となると確信した。

今日、第十五回の記念大会を迎  
えた。実は、四月頃は、お別れの  
会になるかもと思つていた。

小児がんを最初に見つけてくれた人で、あの時と同じ表情で言つた。「握力がほとんどなく、尋常ではありません。直ぐに大学病院なりで精密検査をしてください」精密検査が始まった。自分でも病状をネットなどで調べた。ある不治の病気の初期症状に似ていた。「体が自由に動くのは一年? 余命は数年か…」一枚のメモをつくった。始末書である。一枚は「いのちの授業」の活動、もう一枚はプライベートのもの。そして、お世話になつた人への手紙もつくりつた。明け方まで寝つけなかつた。

検査は四ヶ月続いた。幸い、不治の病ではなかつたが、原因は不明だつた。自己免疫機能の異常かも? と、様子を見ることになつた。今は、握力が少し戻つてゐるが電話帳を片手で持てない。拳を握れない。手首が十分に返らずに字を書くことが辛い。自分でマッサー



近著：大人のための「いのちの授業」、子ども  
のための「いのちの授業」（致知出版社）